

プロセスCPUからユニバーサルモデルプロセスCPUへの置換え方法

■発行

2013年5月(2018年10月改訂B版)

■適用機種

Q04UDPVCPU, Q06UDPVCPU, Q13UDPVCPU, Q26UDPVCPU

三菱電機シーケンサMELSEC-Qシリーズに格別のご愛顧を賜り厚くお礼申し上げます。
本テクニカルニュースでは、プロセスCPUからユニバーサルモデルプロセスCPUへの置換え方法を説明します。
なお、本テクニカルニュースに示す参照マニュアルおよび参照先は、2018年9月のものです。

1 用語

本テクニカルニュースでは、特に明記する場合を除き、下記の用語を使用して説明します。

総称	内容
プロセスCPU	Q02PHCPU, Q06PHCPU, Q12PHCPU, Q25PHCPUの総称
ユニバーサルモデルプロセスCPU	Q04UDPVCPU, Q06UDPVCPU, Q13UDPVCPU, Q26UDPVCPUの総称

2 置換え時の留意点

システム構成

項目	留意点	置換え方法	参照
RS-232ポート	RS-232ポートは未搭載です。	USBポートまたはEthernetポートを使用してください。また、RS-232で接続しなければならない場合は、QJ71C24N(-R2)を装着して使用してください。	—
USBポート	使用できるUSBケーブルが異なります。 <ul style="list-style-type: none"> QnPHCPU: A-Bタイプ QnUDPVCPU: A-miniBタイプ 	A-miniBタイプのUSBケーブルに置き換えてください。またはB-miniB変換用のUSB変換アダプタを使用して接続してください。 ^{*1}	—
構成可能機器、使用可能なソフトウェア	<ul style="list-style-type: none"> QnPHCPUで使用可能だったプログラミングツール、PX Developerが使用できない、またはバージョンアップが必要になります。(GX Developerは使用できません。) QnPHCPUで使用可能だったGOT、および一部のインテリジェント機能ユニットが使用できない、またはバージョンアップが必要になります。 	<ul style="list-style-type: none"> QnUDPVCPUに対応したバージョンのGX Works2、PX Developerにバージョンアップしてください。 QnUDPVCPUに対応したバージョンのGOTおよびインテリジェント機能ユニットに置き換えてください。 	7ページ 構成可能機器、使用可能なソフトウェア
マルチCPUシステム	QnUDPVCPUでは、演算処理の高速化により、スキャンタイムが短縮されます。マルチCPUシステムにおいて、QnUDPVCPUのスキャンタイム短縮により、他ユニットへのアクセスが高頻度で実行されるため、他号機CPUの処理時間が延びることがあります。	他号機CPUも含めて処理タイミングを確認しながら、タイマやコンスタントスキャンなどを利用し、他ユニットへ行うアクセスの頻度を調整してください。	QCPUユーザーズマニュアル(マルチCPUシステム編)
MELSECNET/H	ネットワークの簡易二重化機能を使用できません。	—	Q対応MELSECNET/Hネットワークシステムリファレンスマニュアル (PC間ネット編)の7.7節
多重リモートI/O	多重リモートI/O機能は使用できません。	—	—

*1 周辺機器用ケーブル・変換器の紹介品、接続可能品については、三菱電機FAサイトを参照してください。

www.MitsubishiElectric.co.jp/fa

📖周辺機器用ケーブル・変換器の紹介品、接続可能品一覧(FA-D-0036)

プログラム

項目	留意点	置換え方法	参照
言語・命令	一部の命令を使用できません。	QnUDPVCPUで使用できない命令は、QnUCPUユーザーズマニュアル(機能解説・プログラム基礎編)の付5.3のとおり置き換えてください。	QnUCPUユーザーズマニュアル(機能解説・プログラム基礎編)の付5.3
浮動小数点演算	従来の浮動小数点演算命令は単精度で演算します。	QnUDPVCPUでは倍精度演算用の浮動小数点演算命令を追加しています。倍精度の浮動小数点演算が必要な場合、QnUCPUユーザーズマニュアル(機能解説・プログラム基礎編)の付5.4.1のとおり置き換えてください。 ^{*1}	QnUCPUユーザーズマニュアル(機能解説・プログラム基礎編)の付4.4、付5.4.1、付5.4.2
	浮動小数点データ比較命令のLDE□、ANDE□、ORE□、LDED□、ANDED□、ORED□において比較元データが-0、非数、非正規化数、±∞の場合“OPERATION ERROR”(エラーコード:4101)を検出します。(□には=, <>, <=, >=, <, >のいずれかが該当します。)	浮動小数点データ比較命令を使用している場合、QnUCPUユーザーズマニュアル(機能解説・プログラム基礎編)の付5.4.2に示すとおりプログラムを修正してください。 ^{*1}	—
	QnPHCPUでの演算結果とQnUDPVCPUの演算結果が若干異なることがあります。	実際のシステムにおいて問題がないことを十分確認してください。	—
インデックス修飾されたデバイスの範囲チェック	インデックス修飾により、デバイス番号がデバイス範囲を超えたときには“OPERATION ERROR”(エラーコード:4101)を検出します。	インデックス修飾されたデバイスの範囲チェックを無効にするには、PCパラメータのPC RAS設定で、“インデックス修飾されたデバイスの範囲チェックを行う”のチェックをはずしてください。	QnUCPUユーザーズマニュアル(機能解説・プログラム基礎編)の付5.4.3 ^{*1}

FA-D-0155-B

項目	留意点	置換え方法	参照
プログラムの実行タイプ	低速実行タイププログラムを使用できません。	スキャン実行タイプまたは定周期実行タイプに置き換えてください。	QnUCPUユーザーズマニュアル（機能解説・プログラム基礎編）の2.10節
	プログラム実行タイプをリモート操作により変更できません。 ただし、シリアルNo.の上5桁が"18112"以降のQnUDPVCPUでは、プログラム実行タイプがスキャンまたは待機の場合、リモート操作によりプログラム実行タイプの変更が可能です。	プログラム実行タイプを切り替える場合は、プログラム実行タイプ切替え命令(PSTOP, POFF, PSCAN)を使用してください。	
ラッチ設定	内部ユーザデバイスのラッチ範囲を設定すると、ラッチするデバイス点数に比例した分の処理時間がかかります。	QnUDPVCPUでは、下記(1)~(4)のとおりラッチ機能が充実しています。 (1) 大容量のファイルレジスタ(R, ZR) (2) デバイスデータの標準ROMへの書き込み/読み出し(SP.DEVST/S(P).DEVLD命令) (3) 内部ユーザデバイスのラッチ範囲指定 (4) ラッチ間隔設定の"時間設定" 内部ユーザデバイスでラッチしていた内容を、用途に応じて(1)~(4)の方法でラッチするように変更してください。	QnUCPUユーザーズマニュアル（機能解説・プログラム基礎編）の3.3節、3.3節(5)(b)、付5.4.4*1
割込みプログラム	割込みカウンタを使用できません。	割込みプログラム実行回数は、割込みプログラム一覧モニタで確認してください。	QnUCPUユーザーズマニュアル（機能解説・プログラム基礎編）の3.13.2項
	エラー発生による割込みポインタ(I32~I40)を使用できません。	—	QnUCPUユーザーズマニュアル（機能解説・プログラム基礎編）の4.11節
SCJ命令	SCJ命令使用時は、SCJ命令の直前にAND SM400(またはNOP命令)を挿入する必要があります。	SCJ命令使用時は、SCJ命令の直前にAND SM400(またはNOP命令)を挿入してください。	MELSEC-Q/L プログラミングマニュアル（共通命令編）の6.5節
ZPUSH命令	インデックスレジスタの数を20個に増やしています。そのため、ZPUSH命令でインデックスレジスタの値を退避するときに使用するエリアが増加します。	必要に応じて、ZPUSH命令で使用する退避用エリアを増やしてください。	MELSEC-Q/L プログラミングマニュアル（共通命令編）の7.19節
プログラムごとのファイル使用方法設定	プログラムごとに下記のファイル使用方法を設定できません。 ・ファイルレジスタ ・デバイス初期値 ・コメント	ファイル使用方法設定をしている場合、QnUCPUユーザーズマニュアル（機能解説・プログラム基礎編）の付5.4.5のとおり置き換えてください。*1	QnUCPUユーザーズマニュアル（機能解説・プログラム基礎編）の2.10節、付5.4.5
プログラムごとのI/Oリフレッシュ設定	プログラムごとのI/Oリフレッシュ設定を設定できません。	プログラムごとに入出力リフレッシュが必要な場合、RFS命令を使用してください。	・QnUCPUユーザーズマニュアル（機能解説・プログラム基礎編）の2.10節 ・MELSEC-Q/L プログラミングマニュアル（共通命令編）
SM/SD	一部の特殊リレー、特殊レジスタの使用方法を変更しています。	該当の特殊リレー、特殊レジスタは、QnUCPUユーザーズマニュアル（機能解説・プログラム基礎編）の付5.5に示す代替方法により置き換えてください。	QnUCPUユーザーズマニュアル（機能解説・プログラム基礎編）の付5.5
	A互換特殊リレー /特殊レジスタを使用できません。(SM1000~SM1255/SD1000~SD1255)	プログラミングツールの変換機能により、A互換特殊リレー /特殊レジスタはQnUDPVCPU用の特殊リレー /特殊レジスタに置き換えられます。ただし、互換性のないものについては、SM1255/SD1255に置き換えられますので、必要に応じてプログラムを変更してください。	QCPUユーザーズマニュアル（ハードウェア設計・保守点検編）
処理時間	スキャンタイム、各種処理時間が変わります。	処理タイミングを確認しながら、必要に応じてプログラムを修正してください。	—

FA-D-0155-B

項目	留意点	置換え方法	参照
ステップ数	一部の命令で基本ステップ数が増加します。 下記の条件が該当するごとにプログラムステップ数が1ステップ増加します。 ・インデックス修飾を使用した場合 ・立上り実行命令、立下り実行命令を使用した場合 ・K1~K3, K5~K7の桁指定、およびデバイスNo.が16の倍数以外の桁指定を使用した場合	— 置換え対象プログラムで左記デバイス修飾が多用されている場合、PCタイプ変更を実施すると容量オーバーとなる可能性があるため、PCタイプ変更を実施後、メモリ容量計算機能を用いてプログラムの容量を確認してください。プログラムの容量がオーバーしている場合は、下記のプログラムの見直し、またはプログラムメモリの大きい機種を使用してください。 ・パラメータやデバイスコメントを標準ROMに移動する。 ・RUN中書き込み確保ステップを削減する。 ・64Kワード未満のファイルレジスタ、拡張データレジスタ、拡張リンクレジスタを使用するとともにプログラムステップ数が1ステップ減少するので、64Kワード未満で使用するよう調整する。	— MELSEC-Q/L プログラミングマニュアル（共通命令編）の3.8節

*1 参照先の“ハイパフォーマンスモデルQCPU”を“プロセスCPU”に読み替えてください。

パラメータサイズ

項目	留意点	置換え方法	参照
パラメータサイズ	パラメータサイズが内蔵Ethernetポート設定分増加します。	・不要ファイルを削除して空き容量を確保してください。 ・空き容量のある他のメモリへパラメータを格納してください。	—

ドライブ・ファイル

項目	留意点	置換え方法	参照
ブートファイル設定	標準ROMのファイルをプログラムメモリにブートすることはできません。	QnUDPVCPUではバッテリー電圧が低下しても、プログラムメモリの内容は保持するため、ブートファイル設定は不要です。 標準ROMからプログラムメモリにブートしていたファイルは、プログラムメモリに移動してください。	QnUCPUユーザーズマニュアル（機能解説・プログラム基礎編）の2.11節、付5.4.6
	ブートの動作が異なります。	QnPHCPUでパラメータ有効ドライブ、ブートファイル設定を設定している場合の置換え方法をQnUCPUユーザーズマニュアル（機能解説・プログラム基礎編）の付5.4.6を参照してください。*1	
	転送元(ブート元)にメモリカード(SRAMカード、ATAカード、Flashカード)を指定できません。	転送元(ブート元)にSDメモリカードを指定してください。	
メモリカード→標準ROM全データ自動書込み	メモリカード→標準ROM全データ自動書込みの方法が異なります。	・PCパラメータのブートファイル設定において、ブートファイルの転送先に“標準ROM”を選択してください。ただし、プログラムの転送先は“プログラムメモリ”に設定してください。(ディップスイッチの設定は不要です。) ・プログラムキャッシュメモリの内容をプログラムメモリ(フラッシュROM)に転送することにより、通常運転で代用可能です。(自動バックアップ機能)	QnUCPUユーザーズマニュアル（機能解説・プログラム基礎編）の2.11節
デバイスコメント	デバイスコメントファイルの格納先にSRAMカードを指定できません。	デバイスコメントファイルの格納先に標準RAMを指定してください。	—
	デバイスコメントファイルの格納先にATAカード、Flashカードを指定できません。	デバイスコメントファイルの格納先にSDメモリカードを指定してください。	—
デバイス初期値	デバイス初期値の格納先にSRAMカードを指定できません。	デバイス初期値の格納先に標準RAMまたは標準ROMを指定してください。	QnUCPUユーザーズマニュアル（機能解説・プログラム基礎編）の3.25節
	デバイス初期値の格納先にATAカード、Flashカードを指定できません。	デバイス初期値の格納先にSDメモリカードを指定してください。	

FA-D-0155-B

項目	留意点	置換え方法	参照
ローカルデバイス	ローカルデバイスファイルの格納先にSRAMカードを指定できません。	<ul style="list-style-type: none"> ローカルデバイスファイルの格納先に標準RAMを指定してください。 ローカルデバイスファイルの合計サイズが標準RAMの容量を超える場合、拡張SRAMカセットを使用して標準RAMの容量を拡張することをご検討ください。 	QnUCPUユーザーズマニュアル（機能解説・プログラム基礎編）の6.2節
ファイルレジスタ	ファイルレジスタの格納先にSRAMカードを指定できません。	<ul style="list-style-type: none"> ファイルレジスタの格納先に標準RAMを指定してください。 ファイルレジスタの合計サイズが標準RAMの容量を超える場合、拡張SRAMカセットを使用して標準RAMの容量を拡張することをご検討ください。 	QnUCPUユーザーズマニュアル（機能解説・プログラム基礎編）の4.7.1項
	ファイルレジスタの格納先にFlashカードを指定できません。(Flashカードのファイルレジスタを使用した場合、シーケンスプログラムでは読み出しのみ可能です。)	SDメモリカードを使用したデバイス初期値やFREAD/FWRITE命令に置き換えてください。	<ul style="list-style-type: none"> QnUCPUユーザーズマニュアル（機能解説・プログラム基礎編）の3.25節 MELSEC-Q/L プログラミングマニュアル（共通命令編）
サンプリングトレース	サンプリングトレースの格納先に、SRAMカードが指定できません。	<ul style="list-style-type: none"> サンプリングトレースの格納先に標準RAMを指定してください。 サンプリングトレースの合計サイズが標準RAMの容量を超える場合、拡張SRAMカセットを使用して標準RAMの容量を拡張することをご検討ください。 	QnUCPUユーザーズマニュアル（機能解説・プログラム基礎編）の3.14節(2)

*1 参照先の“ハイパフォーマンスモデルQCPU”を“プロセスCPU”に読み替えてください。

外部との交信

項目	留意点	置換え方法	参照
ユニットサービス間隔読出し	ユニットサービス間隔時間を読み出すことができません。	—	QnUCPUユーザーズマニュアル（機能解説・プログラム基礎編）の3.24.1項
MCプロトコル	下記のコマンドにおいてモニタ条件の設定を指定できません。 <ul style="list-style-type: none"> ワード単位のランダム読出し(コマンド: 0403) デバイスメモリのモニタ(コマンド: 0801) 対象となるフレームタイプを下記に示します。 <ul style="list-style-type: none"> QnA互換3C/4Cフレーム QnA互換3Eフレーム 4Eフレーム 	—	MELSECコミュニケーションプロトコルリファレンスマニュアル

機能

項目	留意点	置換え方法	参照
セキュリティ機能	CPUユニット内のファイルアクセスを制限したい場合に使用するセキュリティ機能のパスワード登録をファイルパスワード32に機能強化しています。	パスワード登録の代わりにファイルパスワード32を使用してパスワードを再設定してください。	QnUCPUユーザーズマニュアル（機能解説・プログラム基礎編）の3.19節
エラー履歴	メモリカードへ格納できません。	QnUDPCPUでは従来のメモリカードに格納できる件数(100件)をシステムメモリに格納できます。	QnUCPUユーザーズマニュアル（機能解説・プログラム基礎編）の3.18節
LED表示優先順位の設定	LED表示優先順位を設定できません。異常が発生したときのLED表示有無のみ設定することができます。	—	QnUCPUユーザーズマニュアル（機能解説・プログラム基礎編）の3.20.2項
オンラインユニット交換機能	オンラインユニット交換機能は使用できません。	—	—

FA-D-0155-B

デバッグ

項目	留意点	置換え方法	参照
スキャンタイム測定	スキャンタイム測定機能を使用して、プログラムの一部分の実行時間を計測することができません。 ^{*1}	マニュアルに記載の命令処理時間で算出してください。	<ul style="list-style-type: none"> • QnUCPUユーザーズマニュアル（機能解説・プログラム基礎編）の3.13.3項 • MELSEC-Q/L プログラミングマニュアル（共通命令編）の付1

*1 プログラム単位のスキャンタイムは、プログラム一覧モニタにより確認できます。

CPUユニット前面スイッチ

項目	留意点	置換え方法	参照
RUN/STOPスイッチ	スイッチによるRUN/STOP/RESETの操作方法が変更になります。	QnUDVPCPUでは、RESET/STOP/RUNスイッチにより、CPUユニットのリセット操作、およびSTOP↔RUNの切替えができます。	QCPUユーザーズマニュアル（ハードウェア設計・保守点検編）の6.1.3項
RESET/L.CLRスイッチ	スイッチによるラッチクリアができません。	ラッチクリアは、下記方法で行ってください。 • プログラミングツールによるリモートラッチクリア	QnUCPUユーザーズマニュアル（機能解説・プログラム基礎編）の3.6.4項
システムプロテクト	スイッチによるシステムプロテクト設定ができません。	ファイルごとパスワード登録することで、ファイル書換えを防止することができます。ファイルごとのパスワードはプログラミングツールで登録できます。	QnUCPUユーザーズマニュアル（機能解説・プログラム基礎編）の3.19節
パラメータ有効ドライブ	パラメータ有効ドライブの設定が不要です。	QnUDVPCPUでは、パラメータ有効ドライブを自動的に判別します。QnPHCPUでパラメータ有効ドライブをプログラムメモリ以外に設定していた場合、QnUCPUユーザーズマニュアル（機能解説・プログラム基礎編）の付5.4.6に示すように置き換えてください。 ^{*1}	QnUCPUユーザーズマニュアル（機能解説・プログラム基礎編）の2.1.2項、付5.4.6

*1 参照先の“ハイパフォーマンスモデルQCPU”を“プロセスCPU”に読み替えてください。

SFC

項目	留意点	置換え方法	参照
ステップ移行監視タイマ	ステップ移行監視タイマを使用できません。	右記マニュアルの付3に示すとおり置き換えてください。	MELSEC-Q/L/QnA プログラミングマニュアル(SFC編)の4.6節、付3
SFC動作モード設定	定時実行ブロック設定は使用できません。	右記マニュアルの付3に示すとおり置き換えてください。	MELSEC-Q/L/QnA プログラミングマニュアル(SFC編)の4.7節、付3
	活性ステップへの移行(ステップ二重起動時の運転モードを選択できません。(「移行」固定になります。))	—	MELSEC-Q/L/QnA プログラミングマニュアル(SFC編)の4.7節
プログラム実行管理用SFCプログラム	プログラム実行管理用SFCプログラムを使用できません。	—	MELSEC-Q/L/QnA プログラミングマニュアル(SFC編)の5.3節
SFC制御命令	一部のSFC制御命令を使用できません。	使用できない命令および置き換え方法については、QnUCPUユーザーズマニュアル（機能解説・プログラム基礎編）の付5.3を参照してください。	<ul style="list-style-type: none"> • QnUCPUユーザーズマニュアル（機能解説・プログラム基礎編）の付5.3 • MELSEC-Q/L/QnA プログラミングマニュアル(SFC編)の4.4節
SFCプログラムの変更方法	SFCプログラムのファイルのRUN中書込みができません。(SFC図内のプログラムをRUN中書込みにより変更することは可能です。)	<ul style="list-style-type: none"> • QnUDVPCPUをSTOP状態に変更してからPC書込みを行ってください。 • 非活性中のブロックに対するSFCプログラムの変更の場合は、非活性ブロックRUN中書込みで変更できます。 	MELSEC-Q/L/QnA プログラミングマニュアル(SFC編)の6.6節

3 構成可能機器, 使用可能なソフトウェア

3.1 QnUDPVCPUと組み合わせて使用するために置換えが必要な機器

下記の機器では, QnUDPVCPUと組み合わせて使用するために置換えが必要です。(下記以外の機器では, 置き換える必要はありません。)

情報ユニット

品名	形名	QnUDPVCPUと組み合わせが可能なユニットのバージョンのシリアルNo.の上5桁 ^{*2}
Webサーバユニット ^{*1}	• QJ71WS96	"14122"以降
MESインタフェースユニット	• QJ71ME596	"14122"以降
高速データロガーユニット	• QD81DL96	"14122"以降

*1 GX RemoteService-IをWebサーバユニットにインストールして使用した場合には, QnUDPVCPUは正常に動作しません。

*2 QnUDPVCPUと組み合わせが可能なバージョン以外の製品を使用した場合には, QnUDPVCPUは正常に動作しません。

パソコン用ボード

品名	形名	QnUDPVCPUと組み合わせが可能な専用ソフトウェアパッケージバージョン ^{*1}
CC-Link IEフィールドネットワークインタフェースボード	• Q81BD-J71GF11-T2	Version 1.12N以降
CC-Link IEコントローラネットワークインタフェースボード	• Q81BD-J71GP21-SX • Q81BD-J71GP21S-SX • Q80BD-J71GP21-SX • Q80BD-J71GP21S-SX	Version 1.15R以降
MELSECNET/Hインタフェースボード	SI/QSI/H-PCF光ケーブル	• Q80BD-J71LP21-25 • Q80BD-J71LP21S-25 • Q81BD-J71LP21-25
	GI光ケーブル	• Q80BD-J71LP21G
	同軸ケーブル	• Q80BD-J71BR11
CC-Linkシステムマスタ・ローカルインタフェースボード	• Q80BD-J61BT11N • Q81BD-J61BT11	Version 1.12N以降

*1 ボード本体のバージョンによる制約はありません。

GOT

品名	形名	QnUDPVCPUと組み合わせが可能なGT Works3付属のOSバージョン ^{*1}
GOT1000	• GT16□-□ • GT15□-□ • GT14□-□ • GT11□-□ • GT10□-□	Version 1.73B以降

*1 GOT本体のバージョンによる制約はありません。

FA-D-0155-B

ネットワークユニット

品名	形名	QnUDPVCPUと組み合わせが可能なユニットのバージョン
MELSECNET/Hユニット	<ul style="list-style-type: none"> • QJ71LP21-25 • QJ71LP21S-25 • QJ71LP21G • QJ71BR11 	使用条件により一部制約があります。*1

*1 下記のすべての条件を満たす場合は、シリアルNo.の上5桁が“10042”以降のMELSECNET/Hユニットを使用してください。

- ・ QnUDPVCPUを含むマルチCPUシステムを構成する。
- ・ QnUDPVCPUのEthernetポートにプログラミングツールまたはGOTを接続する。
- ・ プログラミングツールまたはGOTから、他号機管理のMELSECNET/Hユニットを経由して他局アクセスする。
- ・ 他局アクセス先が、A/QnAシリーズCPUユニットである。

3.2 QnUDPVCPUとマルチCPUシステムを構成できるCPUユニット

QnUDPVCPUとマルチCPUシステムを構成できるCPUユニットを下記に示します。

機種名	形名	使用可能なバージョン	制約
モーションCPU	<ul style="list-style-type: none"> • Q172DCPU • Q173DCPU • Q172DCPU-S1 • Q173DCPU-S1 • Q172DSCPU • Q173DSCPU 	バージョンによる制約はありません。	マルチCPU間高速基本ベースユニット(Q3口DB)使用時のみ可能です。
パソコンCPUユニット	<ul style="list-style-type: none"> • PPC-CPU852(MS) 	未対応	—
C言語コントローラユニット	<ul style="list-style-type: none"> • Q06CCPU-V • Q06CCPU-V-B • Q12DCCPU-V 	未対応	—
	<ul style="list-style-type: none"> • Q24DHCCPU-V 	シリアルNo.の上5桁が“15051”以降	—
	<ul style="list-style-type: none"> • Q24DHCCPU-LS 	バージョンによる制約はありません。	—
ハイパフォーマンスモデルQCPU	<ul style="list-style-type: none"> • Q02CPU • Q02HCPU • Q06HCPU • Q12HCPU • Q25HCPU 	機能バージョンB以降	—
プロセスCPU	<ul style="list-style-type: none"> • Q02PHCPU • Q06PHCPU • Q12PHCPU • Q25PHCPU 	バージョンによる制約はありません。	—
ユニバーサルモデルQCPU	<ul style="list-style-type: none"> • Q03UD(E)CPU • Q03UDVCPU • Q04UD(E)HCPU • Q04UDVCPU • Q04UDPVCPU • Q06UD(E)HCPU • Q06UDVCPU • Q06UDPVCPU • Q10UD(E)HCPU • Q13UD(E)HCPU • Q13UDVCPU • Q13UDPVCPU • Q20UD(E)HCPU • Q26UD(E)HCPU • Q26UDVCPU • Q26UDPVCPU • Q50UDEHCPU • Q100UDEHCPU 	バージョンによる制約はありません。	—

3.3 QnUDPVCPUと組み合わせて使用できない機器

下記の機器はQnUDPVCPUと組み合わせて使用できません。

品名	形名
GOT	GOT900シリーズ
プログラミングユニット	EPU01
ハンディグラフィックプログラマ	EHGP10
PocketLadder	EPGP2Q□□-CE

改訂履歴

副番	発行年月	改訂内容
-	2013年5月	初版
A	2015年12月	QnUDPVCPUと組み合わせて使用するために置換えが必要な機器を見直しました。
B	2018年10月	e-Manualに対応しました。

FA-D-0155-B

三菱電機株式会社 〒100-8310 東京都千代田区丸の内2-7-3 (東京ビル)

お問い合わせは下記へどうぞ

本社	〒100-8310	東京都千代田区丸の内2-7-3 (東京ビル)	(03) 3218-6760
北海道支社	〒060-8693	札幌市中央区北二条西4-1 (北海道ビル)	(011) 212-3794
東北支社	〒980-0013	仙台市青葉区花京院1-1-20 (花京院スクエア)	(022) 216-4546
関東支社	〒330-6034	さいたま市中央区新都心11-2 (明治安田生命さいたま新都心ビル)	(048) 600-5835
新潟支店	〒950-8504	新潟市中央区東大通2-4-10 (日本生命ビル)	(025) 241-7227
神奈川支社	〒220-8118	横浜市西区みなとみらい2-2-1 (横浜ランドマークタワー)	(045) 224-2624
北陸支社	〒920-0031	金沢市広岡3-1-1 (金沢パークビル)	(076) 233-5502
中部支社	〒450-6423	名古屋市中村区名駅3-28-12 (大名古屋ビルディング)	(052) 565-3314
豊田支店	〒471-0034	豊田市小坂本町1-5-10 (矢作豊田ビル)	(0565) 34-4112
静岡支店	〒422-8067	静岡市駿河区南町14-25 (エスパティオビル)	(054) 202-5630
関西支社	〒530-8206	大阪市北区大深町4-20 (グランフロント大阪タワーA)	(06) 6486-4122
中国支社	〒730-8657	広島市中区中町7-32 (ニッセイ広島ビル)	(082) 248-5348
四国支社	〒760-8654	高松市寿町1-1-8 (日本生命高松駅前ビル)	(087) 825-0055
九州支社	〒810-8686	福岡市中央区天神2-12-1 (天神ビル)	(092) 721-2247

三菱電機 FA
検索

www.MitsubishiElectric.co.jp/fa

メンバー登録無料!

インターネットによる情報サービス「三菱電機FAサイト」

三菱電機FAサイトでは、製品や事例などの技術情報に加え、トレーニングスクール情報や各種お問い合わせ窓口をご提供しています。また、メンバー登録いただくとマニュアルやCADデータ等のダウンロード、eラーニングなどの各種サービスをご利用いただけます。

三菱電機FA機器電話, FAX技術相談

●電話技術相談窓口 受付時間*1 月曜～金曜 9:00～19:00、土曜・日曜・祝日 9:00～17:00

対象機種		電話番号	対象機種		電話番号		
自動窓口案内		052-712-2444	SCADA MC Works64		052-712-2962 ^{※2※6}		
エッジコンピューティング製品	産業用PC MELIPC (MIS000/2000/1000)	052-712-2370 ^{※2}	サーボ/位置決めユニット/ シンプルモーションユニット/ モーションコントローラ/ センシングユニット/ 組込み型サーボシステム コントローラ	MELSERVOシリーズ	052-712-6607		
	Edgecross対応ソフトウェア (MTConnectデータコレクタを除く)			位置決めユニット (MELSEC iQ-R/Q/L/AnSシリーズ)			
MELSEC iQ-R/Q/L/QnAS/AnSシーケンサ一般	052-711-5111	モーションCPU (MELSEC iQ-R/Q/AnSシリーズ)					
MELSEC iQ-F/FXシーケンサ全般	052-725-2271 ^{※3}	センシングユニット (MR-MTシリーズ)					
ネットワークユニット/ シリアルコミュニケーションユニット	052-712-2578	シンプルモーションボード					
MELSOFTシーケンサプログラミングツール	MELSOFT GXシリーズ	052-711-0037		C言語コントローラ			
MELSOFT統合エンジニアリング環境	MELSOFT iQ Works (Navigator)	052-799-3591 ^{※2}		インタフェースユニット (Q173SCCF)/ポジションボード			
iQ Sensor Solution				MELSOFT MTシリーズ/ MRシリーズ/EMシリーズ			
MELSOFT通信支援ソフトウェアツール	MELSOFT MXシリーズ	052-712-2370 ^{※2}		センサレスサーボ		FR-E700EX/MM-GKR	052-722-2182
MELSECパソコンボード	Q80BDシリーズなど			インバータ		FREQROLシリーズ	052-722-2182
シーケンサ	C言語コントローラ	052-799-3592 ^{※2}	三相モータ	三相モータ225フレーム以下	0536-25-0900 ^{※2※4}		
MESインタフェースユニット/ 高速データロガーユニット			産業用ロボット	MELFAシリーズ	052-721-0100		
MELSEC計装/iQ-R/Q二重化	プロセスCPU/二重化CPU (MELSEC-Qシリーズ)	052-712-2830 ^{※2※3}	電磁クラッチ・ブレーキ/デジシジョンコントローラ	MELQICシリーズ	052-712-5430 ^{※5}		
	プロセスCPU/二重化機能 SIL2プロセスCPU (MELSEC iQ-Rシリーズ)		データ収集アナライザ	MELQIC IU1/IU2シリーズ	052-712-5440 ^{※5}		
MELSEC Safety	MELSOFT PXシリーズ	052-712-3079 ^{※2※3}	低圧開閉器	MS-Tシリーズ/MS-Nシリーズ	052-719-4170		
	安全シーケンサ (MELSEC iQ-R/QSシリーズ)		US-Nシリーズ				
電力計測ユニット/ 絶縁監視ユニット	安全コントローラ (MELSEC-WSシリーズ)	052-719-4557 ^{※2※3}	低圧遮断器	ノーヒューズ遮断器/ 漏電遮断器/ MDUブレーカ/ 気中遮断器 (ACB) など	052-719-4559		
	絶縁監視ユニット		電力管理用計器	電力量計/計器用変成器/ 指示電気計器/管理用計器/ タイムスイッチ	052-719-4556		
FAセンサ MELSENSOR	レーザ変位センサ	052-799-9495 ^{※2}	省エネ支援機器	EcoServer/E-Energy/ 検針システム/ エネルギー計測ユニット/ B/NET など	052-719-4557 ^{※2※3}		
GOT表示器	ビジョンセンサ	052-712-2417	小容量UPS (5kVA以下)	FW-Sシリーズ/FW-Vシリーズ/ FW-Aシリーズ/FW-Fシリーズ	052-799-9489 ^{※2※6}		
	GOT2000/1000シリーズ						
	MELSOFT GTシリーズ						

お問い合わせの際には、今一度電話番号をお確かめの上、お掛け間違いのないようお願い致します。
 ※1: 春季・夏季・年末年始の休日を除く ※2: 土曜・日曜・祝日を除く ※3: 金曜は17:00まで ※4: 月曜～木曜の9:00～17:00と金曜の9:00～16:30
 ※5: 受付時間9:00～17:00 (土曜・日曜・祝日・当社休日を除く) ※6: 月曜～金曜の9:00～17:00

●FAX技術相談窓口 受付時間 月曜～金曜 9:00～16:00 (祝日・当社休日を除く)

対象機種	FAX番号	対象機種	FAX番号
電力計測ユニット/絶縁監視ユニット (QEシリーズ/REシリーズ)	084-926-8340	低圧遮断器	084-926-8280
三相モータ225フレーム以下	0536-25-1258 ^{※7}	電力管理用計器/省エネ支援機器/小容量UPS (5kVA以下)	084-926-8340
低圧開閉器	0574-61-1955		

三菱電機FAサイトの「仕様・機能に関するお問い合わせ」もご利用ください。
 ※7: 月曜～木曜の9:00～17:00と金曜の9:00～16:30 (祝日・当社休日を除く)

⚠ 安全に関するご注意

本テクニカルニュースに記載された製品を正しくお使いいただくためご使用前に必ず「マニュアル」をよくお読みください。